

<宮城県での取り組み>

- ・ 宮城県とは、障害福祉課等と意見交換を行っている。石巻地区を拠点地区と位置づけ、かもめ学園と「遊びの広場」での発達相談や発達アセスメントを中心に、職能団体の専門家が支援を提供していく。
- ・ 石巻地区での石巻祥心会・かもめ学園への支援を拠点とする取り組みを行う。児童デイサービスを提供している機関である、①かもめ学園への運営ボランティア(大学生等)の派遣調整(4月13日から翌年度末まで)。派遣調整用のホームページ(<http://sites.google.com/site/kamomevolunteer/home>)を作成している。②かもめ学園の障害児のアセスメントの手伝い、③石巻地区で、石巻市や石巻市教育委員会、宮城県・宮城県教育委員会、東部児童相談所、石巻赤十字病院小児科などとの連携のなかで、発達障害や、発達障害の可能性のある子どもとその家族等を対象とした催しの会(「遊びの広場」)を実施し、子どもの遊びの場の提供とともに観察を行うとともに、親たちの話し合いの場を設定し、地域での支援につなげていく。**6月26日**、**7月17日**(以後、継続していく)に予定されている。JDDNETの職能団体からの支援者の派遣を行う。④「発達障害の理解と災害時の子どもの心のケア」について、保育・保健・教育の支援者側の研修を行い、PTSDなどに対応する基本的なスタンスを学ぶ場とするために、杉山登志郎先生の啓発講演(**7月21日**予定)を予定している。地域のなかで、核となる障害児福祉機関を舞台に、地域のさまざまなリソースが協同的に発達障害の子どもたちのニーズの把握からアセスメント、支援の提供までの流れを作り、現地の専門家たちのその後の支援を円滑に行っていくパッケージは、被災地の復興支援においては現実的なものであると考える。
- ・ 仙台市内において、家族の話し合いの場を設定し、そこでのコーディネーター役を、職能団体の専門家が行っていく。
- ・ 職能団体の複数の専門家が、3-4日にわたって、石巻のかもめ学園での「遊びの広場」の準備・当日の実施・学園のアセスメントの補助、仙台での親たちの話し合いのコーディネーターなどを担う。月に1回程度の予定(宮城県からの要望があれば増える可能性はある)。その他、JDDNETのなかでの宮城県の担当者が調整のために何度か現地入りをする。
- ・ すでに4月13日から実質的な支援をスタートしている。かもめ学園へ派遣される運営ボランティアの旅費等、あるいは、専門家派遣の旅費や「遊びの広場」に必要な物資の準備などにJDDNET基金が活用されている。また、第一陣以降、発達障害の子どもを持つ被災家族への必要な物資提供を行い、JDDNET基金が活用された。